

今年度の活動をふり返って

令和2年7月 31 日に発足し、活動をスタート。

新型コロナウイルスの影響で学校の教育活動が制限されるなか
「できることをできるかぎり」の思いで活動しました。



私はアフタースクールの野外ゲームを担当しています。今年はコロナ禍であまりできませんでしたでしたが、密や接触を避けながらもエネルギーの発散ができるよう工夫し、何とか3回実施しました。新年度もたくさんの子どもたちと楽しみたいと思います。

(学び支援部長 元古誠さん)

環境部会では、今回コロナもあり、あんまり活動できませんでしたでしたが、小学生が縄跳びをするときに使っているジャンピングボードが老朽化していたので作りおしました!ジャンピングボードで二重跳びをすると飛びやすくなるみたいです!これからも、いろいろ学校のお手伝いを地域の方と一緒にできたら嬉しいです!これからもご協力お願いします!(行事・環境部長 新田千佳さん)

今年は新型コロナの影響で目立った活動はできなかったと思いますが、商工会青年部といたしましても、これからも地域の子どもたちのために協力したいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いします。(商工会青年部 福田仁哉さん)

活動が制限される中、模索しながらの1年でした。次年度は活発な活動ができるよう祈っております。次年度いかにして活動ができるのかを検討し次年度につなげていければと思います。(体育連盟 大川知之さん)

生活・広報部で子どもたちの学びや成長を支える支援活動に参加しています。毎朝、スクールバス停で見守り活動での「おはよう!」に始まり「行ってらっしゃい」で終わるあいさつ運動を自分の健康管理のパロメーターとして活動しています。

(荒木正義さん)

地域と一体となって、一致団結できるよい活動だと感じています。今年度も、マラソン大会において、サポートをいただき、子どもたちは全力疾走することができました。さらに深く太いつながりて、自慢できる学校づくりを進めていきたいです。

(能勢中学校 本村好史先生)

能勢高校 PTA 役員代表で参加させていただいています。コロナ禍の中、活動が思うように計画できず残念でしたが、来年度は小・中・高が交流できるような活動が計画できると思います。(濱美穂さん)

本年度は新型コロナウイルス感染症のため、様々なイベントが行えませんでした。また会議も自粛傾向にあり、各団体の意見交換ができず大変残念に思っています。来年度こそは、子どもからお年寄り、能勢小の先生方との交流の場が少しでも増え、能勢町が好きと思ってもらえるような会ができれば良いと思っています。

(能勢小学校 PTA 会長 西田晃児さん)

今年は新型コロナの影響で思うほど活動ができませんでした。が、あいさつ運動など、コロナ禍でもできる活動をして来しました。また、研修会ではオンラインで CS マイスターの大谷裕美子さんの講演をお聞きました。今後も、できることをコツコツやって行きたいと考えております。皆様のご協力よろしくお願いします。

(生活・広報部長 岡英治さん)

見守り隊に参加を始めて10年、今年度からあいさつ運動に参加で子どもさんたちに会える機会が増えました。世を越えた社会でいい時間が過ごせることに感謝です。これからも私の世代でできることは微力ですが参加したいと思います。

(西満子さん)

今年度はコロナの影響であまり活動ができませんでした。が、あいさつ運動はできるだけ参加しました。最初のころに比べると自分からあいさつしてくれる子が増えて嬉しく、元氣ももらえ参加してよかったです。(福畑麻紀さん)

ゲストティーチャー、ジャンピングボード作成、体育倉庫整理、マラソン大会立ち番など、今年もたくさんお世話になりました。作っていただいたジャンピングボードでびよんびようれしそうにとび跳ねる子どもたちがたくさんいました。次年度も子どもたちの笑顔がはじける活動を行ってまいります。(能勢小学校 木寺明史先生)

今回、初めて能勢町地域学校協働活動に参加させていただきました。能勢町の学校では、野菜づくりをされています。それらの教育をもっと地域ぐるみで行い、交流を深めることで能勢町らしい教育を続けて欲しいです。今後とも地域学校協働活動が、地域にも根付いて能勢町の将来を守る活動になれば良いと思います。

(能勢中学校 PTA 会長 三浦裕貴さん)

あいさつ運動の際、子どもたちが顔を見て「おはようございます!」と言ってくれる子どもが少なくなってきたと感じました。「あいさつ」はちょっと恥ずかしい、勇気がいるのかもしれないですね。私は毎朝、犬の散歩中に高校生に出会います。早い時間で高校生は10人ほどですが「おはようございます。」と笑顔で挨拶をしてくれます。思わず「おはよう!」って返す私です。その日は朝からウキウキ気分は上昇!まだお家で挨拶をする習慣がないのなら、今から始めてみませんか?辛いことも楽しいことも、誰かと挨拶する(話すと)気分も良い!そしてちょっと顔がほころびそう。コロナが終息したらマスクを外してみんなの笑顔が見たいですね。

(古嶋富美代さん)



能勢ささゆり学園コミュニティ・スクールだより

令和3年4月 能勢小・中学校 学校運営協議会 発行

新型コロナ禍で地域と学校が支えあう学校づくりを目指して

令和2年度の学校や地域社会を取り巻く環境は、「新型コロナウイルス」という未知の病原体に多大な影響を受けたという言葉に尽きるのではないのでしょうか。多くの人々が日々報道される罹患情報に戸惑い、国が発した2度の緊急事態宣言の中で行動を自粛し、防疫に気を配りながら社会活動を行ってきました。

能勢小学校・能勢中学校においても、令和2年3月2日から臨時休業を余儀なくされ、例年であれば児童生徒が喜びにあふれる入学式や卒業式も、規模の縮小や中止を余儀なくされる事態となりました。保護者の皆様をはじめ教職員等も学校の再開に目処がつかない中、緊急事態宣言が解除されて学校が再開できる日を待つしかなく、自粛疲れと焦燥感の漂う毎日であったと思います。

学校運営協議会も年度当初に活動を行うことができず、年間事業予定が見通せない状況でありましたが、6月に入って学校が分散登校により再開され始めると、教育現場は新型コロナウイルスの対応に追われながらもカリキュラムを実施するため多忙を極める日々となり、地域と学校が協働するコミュニティ・スクールに期待される役割は以前と比較しても大きなものとなりました。このような状況の中、7月31日には能勢町地域学校協働本部が発足し、学校運営協議会と併せてコミュニティ・スクールの推進する体制が整えられました。

『新型コロナウイルスの猛威にさらされつつ、地域と学校がどのように関わりを持てるか?』地域のボランティアの方々により支えられているコミュニティ・スクールの活動を企画するに当たって、相反する課題を前に関係者は頭を悩ませていましたが、2学期に入り学校活動が本格化するとアフタースクールや漢字能力検定の他、初めて取り組んだ学習としての「秋祭り」など創意工夫を凝らした活動に、延べ232人のボランティアの方々が密を避けつつ参加していただくことができました。また、11月11日には平日の昼間にもかかわらず、能勢町地域学校協働本部員の方々が学校からの要望に応える形で、ジャンピングボードの製作や体育倉庫の整理を行っていただき、作業を見守る児童生徒や教職員も大変ありがたく感じたところでした。

先の見えない中を手探りで進んできた令和2年度も終わりましたが、振り返ってみますとコロナ禍でも、地域の人々と学校のつながりはより一層深くなっていく兆しがうかがえた一年であったと思います。令和3年度もしばらくの間はコロナ禍の影響が続くことになると思われますが、更に地域の皆様と学校が協働を推進することで地域社会に活気をもたらすことができると思います。

最後に、今号のコミュニティ・スクールだよりの発行を通じて、お世話になった方々にお礼を申し上げるとともに、地域の皆様の更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

教育委員会 事務局



あいさつ運動



ジャンピングボード製作 体育倉庫清掃



漢字能力検定試験

テーマ「地域とともにある学校づくり」

能勢町では、平成30年に学校運営協議会、令和2年7月に地域学校協働本部が発足。これまでの学校運営協議会の活動を更に広いネットワークでつなげることによって、より幅広い方々の参画を推進し、活動の幅を広げ多様な活動を実施していくことを目指しています。令和3年2月10日に学校運営協議会・地域学校協働本部研修会をオンライン端末のウェブ会議にて実施しました。講師に文部科学省地域学校協働活動推進コンサルタントであり、コミュニティ・スクールマイスターでもあります、大谷裕美子氏に講話していただきました。講話内容の目的として、学校運営協議会と地域学校協働本部の概要について、ご自身の市や他府県の取組事例など、これからの地域と学校の連携・協働のあり方について、どうすれば良いのか具体的にお話いただきました。その後、能勢町の学校と地域でどのようなことが実現できるのだろうか、教職員の皆さんの困りごとについて、また、地域ができることについて、意見交換を行い、充実した研修会となりました。以下は、今回の研修で学校側と地域側で出た意見の内容です。



意見交換会のテーマ（学校側から地域側の順に発表）

学校：「先生方の困りごと。お願いごと。地域と一緒にやってみたいこと」

地域：「私個人でできること。能勢っ子や学校のためにできること」

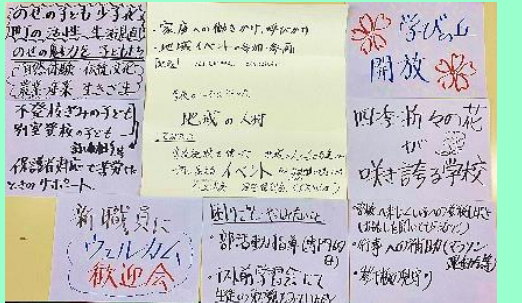
学校側の意見

- ・新しい先生が来たときに顔合わせをしておくのが良いかと。ウェルカム会みたいなのがあれば。
- ・感謝の集い等に給食と一緒に食べ、感謝の場を持つのはどうか。
- ・昨年度の交流給食で、地域のボランティアの方に給食時間に来ていただき配膳補助や子どもたちと一緒に給食を食べていたが、また取り組みたいと。
- ・けやきマラソンで中学生が走っていますが、大人も一緒に走って、大人も一緒になって健康志向を高められたら。お店も出しておでんとかも食べたいです。
- ・大人もダンスコンテストに参加してほしい。気持ちを高めるために地元制作 T シャツを作成して、能勢の経済を回せれたらと思いますので、是非検討していただければ。
- ・登下校や別室へ登校している子どもたちに向けて、地域の方が話し相手になってもらいたい。また、保護者対応で学校と保護者の間に地域の方が上手く入れるケースがあれば入ってもらいたい。
- ・すでに実施しているのですが行事の補助。また登下校の見守り。学校へ登校しにくい子どもたちのお話を聞いていただけるのであれば嬉しい。
- ・能勢小学校は当初ささゆりを育てよう等いろいろありましたが上手く育たず花が少ない状態。校務員さんと児童委員会活動で春に向けてお花を植えようという活動をしているのですが、地域の方がお世話に参画してくだされば。
- ・農業体験、伝統文化学習など自然体験などをお世話になりたい。

- ・部活動に専門的、知識、経験がある方が参加していただきたい。
- ・クラブ活動や、昔遊びなど小学校にはいろいろあるので、交流の場が広がればよいと思う。
- ・体育の補助、技術指導、器械体操（運動）は跳び箱、マット、鉄棒、怪我も予想されるのでそこに人手が欲しい。力を貸していただければありがたい。
- ・中学校テスト前の学習会に生徒の学習を見てもらえるようにしていただければ嬉しい。

地域側の意見

- ・子どもたちに私たちの存在を認識してもらいたい。
- ・先生方にも認知してもらうような取組をしたい。（ウェルカム会の案賛成です。）
- ・校長などの要望をしっかり受け取って、バランス良く行うのが大切だと思います。
- ・自分たちの身近な人に地域のイベントの呼びかけ、顔合わせ、つながりを作れるのでは。
- ・能勢の自然を活かした特徴ある学校づくりを継続して行えるとよい。
- ・学校施設を使った、地域の人と子どもたちが集えるイベント企画。
- ・学校行事の中に組み込み（マラソンの案など）、児童会・生徒会行事に組み込められたら。
- ・星の観測会やお花見、〇〇マルシェといった子どもたち中心に何かできたらよいのではないかと。
- ・能勢の郷土料理、自分の生まれた能勢がこんな地域なのだという思い入れを築けたら。
- ・3年生の巣箱づくりがコロナの関係で止まっているが、継続して良ければ。
- ・アフタースクールのもので、いろいろな自然のものを活用して作っていききたい。
- ・アフタースクールのお手伝いが少ないので、協働本部員の方の参加のきっかけを作れたらと思う。
- ・まずどんなことを行っているか知っていただくのが大事かと。
- ・小学校マラソンルートにある砂利道の整備を行えたら。
- ・環境整備作業やあいさつ運動、子どもたちと遊ぶというのが、できることの一步かと。
- ・自然、農業ということで、農業の担い手がないという問題について子どもの時期の農業体験が重要かと思うので学校や地域で指導していくことが地域のコミュニケーションのきっかけとして大事だと思う。外に出たとしても、戻ってこられる、根付く町づくりで、能勢の魅力を根付かせることが大切だと思う。



大谷裕美子氏からの総括

私がお話している内容よりもとっても深い討論でした。サロンや部活動など実現可能な案もありました。毎回するのは大変かと思いますが、定期的 to開催できるような形を作って持続可能にしていくことが大切だと思います。能勢の皆さんの熱い思いと学校の皆さまの前向きな取組姿勢を大変感じました。

来年コロナが落ち着いて、1つでも2つでも実行ができていればとても素晴らしいことだと思います。地域には「人材」ではなく「人財」があります。これは将来町づくりにつながりますので、頑張っていたいただけたら、また、楽しんでいただけたらと思います。